荒川 麻里（筑波大学／教育制度学）

ツッパリ生徒と泣き虫先生

～伏見工業ラグビー部・日本一への挑戦～

© 2011 NHK

- 種別：DVD ビデオ（テレビ放送番組）
- 編集：NHK
- 発行／販売：NHK エンタープライズ
- 放送日／発行年：2000 年 11 月 21 日放送／2001 年
- 時間：本編 43 分
- 音声／字幕：日本語

あらすじ

京都市立伏見工業高等学校ラグビー部のツッパリ生徒たちと、「泣き虫先生」の愛称で知られる山口良治氏との挑戦を描いたドキュメンタリーである。山口が「伏工ラグビーの産声」と呼ぶのは、112 対 0 の記録的な大敗の後、「悔しい！」と泣き叫んだ小畑選手の声。無名の公立高校ラグビー部は、“One for all, all for one”を合言葉に猛練習し、同年に京都一の偉業を達成した。

かつてテレビドラマのモデルにもなり、話題を呼んだ。NHK 総合のドキュメンタリー番組『プロジェクト X～挑戦者たち～』（2000 年 3 月～2005 年 12 月）の中でも初期の放送作品である。

Chapter
《オープニング》
1. 伝説のラグビーチーム／1’40
2. テーマ曲／2’32
《映像ドキュメント パート 1》
3. ツッパリ生徒たち／11’02
《映像ドキュメント パート 2》
4. 112 対 0 ―記録的大敗／11’41
《映像ドキュメント パート 3》
5. 18 対 12 ―京都一！／11’16
《エンディング》
6. ツッパリたちのその後／4’17
7. DVD 製作者情報／0’09

※ チャプタータイトルは、内容がわかるように筆者が補った

シーン再現

ナレーション：20 対 0…40 対 0…後半 15 分、ついに 80 対 0 になった。その時だった。山口の体の奥から、こらえきれないものが込み上げてきた。そして、大粒の涙がこぼれ落ちた。

山口先生：この情けない子どもたちは、今どんな気持ちなんだろう。めちゃくちゃやられて、悔しいやろうなぁ。歯がゆいやろうなぁ。情けない思いをしてるやろうなぁ。と思った時に、俺は今までこいつらに何をしてやったんや！とはじめて自分に矢印が向いた。俺は何もしてやってない。えらそうにばっかり言って。俺は全日本選手だ、俺は監督だ。その自分に気づいた時に、ほんっとに「すまん」と思った。

ナレーション：結果は、112 対 0。記録的な大敗だった。

涙ながらに語る山口先生

番組の後半、司会の国井アナウンサーが、ゲストで登場した当時のメンバーの一人、小畑道弘さんに尋ねた。「それまで出会った先生と山口先生は、どこが違うんですか？」と。この先生は、どこか違うのである。そこにこそ、一教師をドキュメンタリー番組で取り上げる理由がある。小畑さんは、「心の中から怒ってくれはる。こいつを直したる、という気持ちです」と答えた。山口先生は、「これが俺の弟だったら、息子だったら、という気持ちで接してきました」とその心のうちを語る。「一生つきあうぞ」という強い気持ちで、子どもたちと向き合い続けてきたのだ。

学校教育は、時間と空間の軸によって規定されている点で、家庭教育とは大きく異なる。例えば、高等学校の修業年限は全日制課程で 3 年、定時制・通信制で 3 年以上と定められている（学校教育法第 56 条）。また、学校の設置や設備に関しては、「学校教育法施行規則」や「高等学校設置基準」等の規定がある。教師には、その枠組みの中で教育活動を行うことが求められている。しかし親の場合、例え子が成人しても、原則として「親子」の関係は続き、同時に教育活動も継続することとなる。山口先生は、「自分が親だったら…」という気持ちで、つまり在学期間を超えて、また学校外の生活まで含めて、出会った子どもたち一人一人と向き合い続けた。学校教育の枠を超えて、荒れる子どもたちの心に愛と涙を注いだ結果が、伝説のラグビーチームであり、そのドラマなのである。

子どもにも、それぞれに人生がある。人生を線に例えれば、在学期間の一時期は、その線上に記される一点に過ぎない。親は多くの場合、子どもを線で捉えることが可能である。しかし教師は、まずもって点としての子どもに出会うことになる。山口先生は、子どもたち一人一人が描いてきた線を理解しようと努め、そして未来の線を描くこと、夢を持つことの大切さを子どもたちに伝えてきた。筆者もまた、叔父、山口良治の愛に救われた一人の子どもである。

この DVD は見やすい日本語字幕付きで、聴覚に障がいのある学生や日本語の聞き取りが困難な学生も共に鑑賞することができる。

Information

【DVD】1984-85 年に放送されたドラマが DVD に。そして 2004 年には映画化！
- 『スクール☆ウォーズ ～泣き虫先生の 7 年戦争～』(1)～(9)、TBS、2001 年
- 『スクール・ウォーズ HERO』2004 年、日本、本編 118 分、日本語音声、英語字幕、原作：山口良治、監督：関本郁夫、発売：松竹株式会社

【書籍】映画の原作本
- 山口良治『生きる力を伝えたい―泣き虫先生の熱血教育論』幻冬舎、2004 年